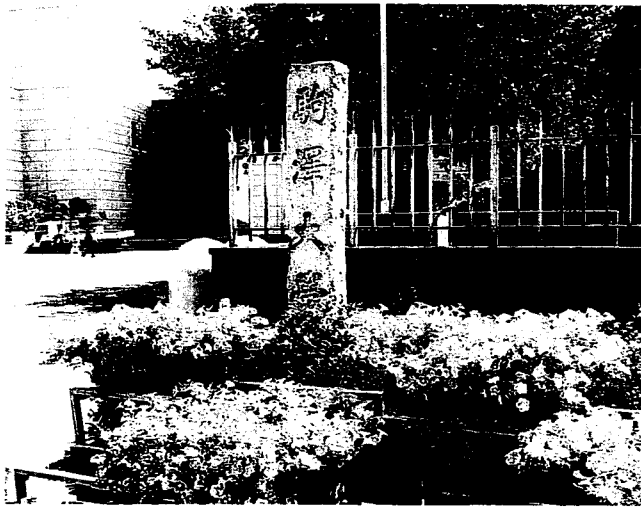


こまざわ経済通信

発行
駒澤大学経済学部
同窓会
〒154-8525
東京都世田谷区駒沢
1-23-1

経済学部創立50周年を来年に控えて さらなる飛躍を目指し、団結を高めよう



大学の方向と同窓生の交流

経済学部同窓会会長 勝場 政範

戦後、長期にわたり構築されたものが、バブルの崩壊とともに金融を始め政治・経済・社会・教育など、すべての分野において問題が生じ、新しいシステムや機能の迅速な対応が求められております。にもかかわらず、それに代わる新しいシステムが見出せないまま規制緩和やグローバル

化あるいはビッグバンが叫ばれ一般市民の間に異様な不安が漂っています。最初に同窓会と直接関係のないことを述べましたが、わたしの「駒澤大学と同窓会」に対する基本的な考え方は、相互理解の推進と二十一世紀に向けての認識を双方がいかに共有できるかと言いうことにつきま

す。経済学部同窓会も再スタートを切って五年になり至りました。十分ではありませんが駒澤大学関係の情報や多少なりとも同窓生に伝達し、問題を提起し理解のきっかけになったかと思っております。日ごろは、できるだけ密度の高い駒澤大学内外の生きた情報をお届けし、三年に一度の再会(総会)で交流をはかるのが現状では必要最小限の望ましい姿だと思います。来るべき平成十一年は経済学部創立五十周年の節目に当たると同時に三年に一度の経済学部同窓会の総会年度でもあります。つきましては、経済学部教員・学生・同窓生の合同の参加企画を考えておりますので同窓生の皆様にもより一層のご理解とご協力をお願いいたします。駒澤大学同窓会も都道府・府・県別に既に地方支部組織が三十五支部設立されたこと聞いております。その支部設立の一環として今年十一月六日に埼玉県支部

経済学部創立50周年記念のイベントアイデア募集

経済学部は、来年創立50周年を迎えます。「経済学部改革検討委員会」では、この度、学部執行部からの諮問を受けて、50周年の記念事業について検討することになりました。委員会では、これを経済学部の活性化を目指すものとして位置づけ、教員サイドの行事(たとえば論文集やシンポジウムなど)にとどまらず、在学生や経済学部同窓会の皆さんにも参加していただく「一大イベント」として企画・準備を進める必要があるということと一致しました。つきましては、以上の趣旨をおくみ取りくださり、同窓生の皆様の「イベント」としてどのようなものがふさわしいかについて、是非豊富なアイデアをご提案くださるようお願い申し上げます。「イベント」に関するご意見、ご希望は10月30日までに下記住所へお送りください。後日、粗品をお送り致します。

「経済学部改革検討委員会」事務局 齋藤 正
(宛て先住所)
〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1
駒澤大学経済学部事務局

設立総会が予定されており、私もその一員としてかわつております。学部を越えてコミュニケーションの「和」が広がります。このことについて気がつきましたことを述べてみたいと思います。駒澤大学の場合、現在各分野ごとに、それぞれの利害に依りて集会(同窓会)が行われております。それ自体は有意義なことではあります。全体として大学と同窓生を結ぶパイプが見当たらず、意思疎通が不十分であったことの現れかと思えます。このことは情報化時代を迎えるに当たり、大学と同窓生の両方に大きな損失であり、時代の変化がそうさせているのか駒澤大学も急ピッチで同窓会組織の整備を進め、地域ごとに同窓会の組織化がはかられております。これらの活動を通じて、

同窓生同士が身近な存在として交流し活躍することが地域での生きる力となつてゆくことを痛感いたしております。さて、駒澤大学は、二十一世紀を迎える今、社会に貢献できる人材を育成するうえで何を基本ベースとするのか、そのビジョンを

短期・中期・長期と分けて、学内外に分かりやすく示して欲しいと、同窓生一人としてお願いして筆をおきたいと思っております。最後になりましたが、学内外の経済学部同窓生の皆さん、激動期ではございますが、一層のご健康とご活躍を祈念いたします。



昭和初期建築の耕雲館(旧図書館)は経済学部の全同窓生が利用したということになる。

キャンパスはまもなく秋の気配に包まれる。これまで幾たびもの季節の移り変わりを経て来た。来年には経済学部も創立五十周年を迎えるとき。この五十年の歳月のうちいづれかの秋に私たちが同窓生は駒澤のキャンパスにいた。耕雲館(旧図書館)前の銀杏の樹は今年も鮮やかな黄色に色づくことだろうか。その銀杏の樹を思ったとき、ふと友の顔が浮かび、夜通し語り明かした日や、共に笑い、共に泣いた青春の瞬間が蘇って来た。厳しかつたクラブの先輩たちが大挙祭最終日の夜に流した涙と安堵の姿を見たときの感動は今でも忘れられない。自ら引退する時の力の抜けて行くような寂しさも忘れられない。▼普段は忘れていても駒澤大学の思い出は誰にでも必ずある。それは何げないきつかけで蘇るものらしい。▼来年は経済学部同窓会も三年に一度の総会を開催する。また、学部創立五十周年行事もあり、キャンパスを訪ねる機会に恵まれる。ゆつくりとキャンパスを散策して懐かしい思い出の数々を拾い集めてみてはいかがだろうか。▼経済的に豊かなことだけが幸せではない。近年の経済不況は、たまにはのんびりした時間を過ごしてみたい。忘れかけていた幸せを見つけることができますよ。という警鐘にも思えてくるのだが、

四季報

経済学部50年の歴史を綴る

名誉教授 西村紀二郎



初講話は渋谷校舎

平成九年三月に定年退職するまで、昭和二十九年秋に非常勤講師として商経学部第二部で講義を始めてから四十二年余大学キャンパスの生活が続いた。四十二年と言えば同窓会の大部分の諸君と接した長期である。諸君と共に過ごしたあれこれ思い出すままに記すことにしようと考え、演習のことが軸になり

演習の充実

演習によって教員と学生の交流の機会が多くなった。そのころの学生と今も交流がある。講義は欠席しても演習だけは必ず顔をだすというのがその頃の学生気質であった。そして演習

初めて第二部で講義をしたのは、今はその建物もなくなっている。

経済学部の歩み

駒澤大学経済学部略史	
1949年	駒澤大学商経学部創設
1952年	商経学部第二部を設置(渋谷区大和田町)
1959年	「研究論集」を発刊(「商経学会」を基礎)
1961年	「駒澤大学研究紀要」を改編、 「駒澤大学商経学部研究紀要」を発刊
1962年	商経学部第二部、駒沢へ移転
1964年	駒澤大学北海道教養部開設
1966年	大学院商学研究科(修士課程)を設置 駒澤大学経済学部名称変更、 第一部商経学科を経済学科・商学科に分離 学部創設二〇周年、 「研究論集」を「経済学論集」に改題
1967年	大学院経済学研究科(修士課程)を設置 大学院商学研究科博士課程を設置
1968年	経済学部在籍学生総数9,622人を数える 駒澤大学刷新委員会創設(大学民主化への過程)
1969年	大学院経済学研究科博士課程を設置 駒澤大学経営学部創設 学部教授会発足・学部長公選制実施
1972年	第二部商経学科を経済学科に改組、入学定員増
1974年	玉川校舎落成、 経済学部等の保健体育・語学などの授業の一部を実施
1976年	学部創設三〇周年
1979年	矢吹敏雄先生に名誉教授号を贈る
1980年	吉澤文男教授学部葬
1983年	第一回経済学部ゼミ対抗ソフトボール大会開催、 (以後、一時中断を経て現在毎年開催)
1985年	永田正臣教授学部葬
1987年	第二研究館落成、経済学部研究室移転
1989年	経済学部創設四〇周年行事開催 (記念講演会、国際シンポジウムなど)
1991年	富浦セミナーハウス落成、ゼミ合宿などのベースとなる
1993年	経済学部同窓会正式発足
1996年	新教育課程(カリキュラム)へ移行
1997年	西村紀二郎先生に名誉教授号を贈る

での研究成果を秋の大学祭で展示するのが恒例で、それを目標に演習のプランを立てられていた。八号館は経済学部の展示場であるかの観があった。

は高かった。履修要項、講義要項の外に特に早い時期に演習要項を作ったこともその一つであり、また演習生募集について、教員が説明に当たる全学生対象の説明会を開いたのもそれであった。

面倒見がよすぎ!

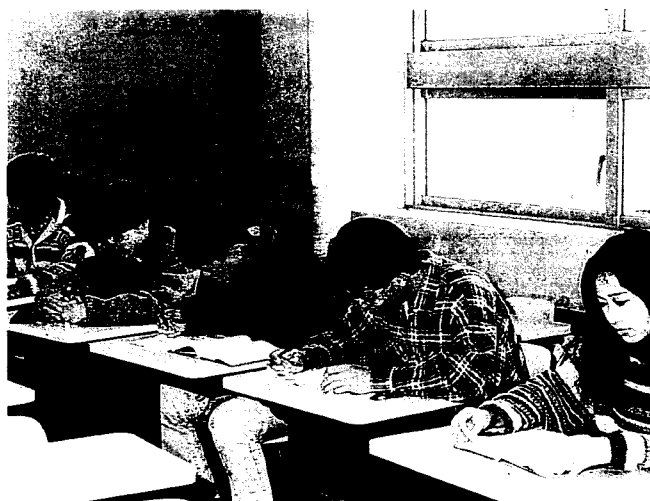
今にして思えば、教員は学生の面倒見がよすぎて、学生の自主性を高める努力に欠けたのではないかの反省もある。演習では合宿が一般化し、ゼミ論集の作成にも盛んになっている。それにもかかわらず、何故か演習に対する学生の熱意が弱くなっていくように思う。ゼミ対抗のソフトボール大会を開くことになったのも、演習に対する学生の意欲を高めるための企画である。ソフトボール大会そのものは望ましいもので、学生生活の思い出としても大事にしてほしいが、演習そ

卒業後の交流

私の経験に合わせた演習の成果とも言えるものを提示しておこう。専任教員になった年度の学生との交流が今も続いている。私は同等の意欲で学生に接してきたが、卒業後の交流は密なものも疎なものもあって、毎年顔合わせをしているクラスもある。在学中の交流が密であったことの象徴が、ゼミ自身の編集作成のアルバムであった、私の手許に毎年度のものが揃っている。最近ではゼミ論集の印刷の期待が強く、どうやら卒業アルバムがこの論集にすり替わった感がある。

卒業後何年か経て、突如の依頼で結婚式の仲介人をさせられたことも再々である。結婚披露宴と呼ばれることは枚挙にいとまがない。そして必ずスピーチを頼まれる。そこでは「信誠敬愛」を「誠敬信愛」に置き替えた祝辞を述べることになっている。多くのゼミ生が同席して、ミニ同期会を開いているようで、その盛り上がりは接して、演習の交わりはこんな豊かなものであったのかといつも感じている。

退職を前に、ゼミの同窓生が謝恩会を開いてくれた。全国から百名近い卒業生が集まる大盛況であった。大学生活の軸に演習があるのだなと思ったことであつた。



経済学部若下ゼミ風景

経済学部ホームページ紹介

駒澤大学経済学部のホームページができました。ぜひ一度覗いてみてください。

URLと内容は、次のとおり。

CONTENTS

経済学部長からのご挨拶／経済学部科目編成(専門教育科目)／カリキュラム／専任教員紹介／ゼミ・研究室紹介／経済学部の一般入試について／経済学部の実施している特別入試等／経済学部の歩み／リンク集

<http://www.komazawa-u.ac.jp/Gakubu/keizai/indexj.html>

渋谷・三茶・駒沢

懐かしの街は今...◆フトリポート◆



渋谷ハチ公前の噴水は今は無い

学生時代を過ごした街というのはいつまでたっても忘れられない。
渋谷、三軒茶屋、駒沢周辺は駒大同窓生にとってはノスタルジーいっぱい、のスポットである。しかし、時代の流れの中で、変貌も遂げている。それら街の様子を紹介してみたい。

渋谷

「渋谷でコンパ」。懐かしい言葉の響きである。センター街で朝まで飲み明かし、大声で歌った記憶のある皆さんも多いのではないだろうか。

さて、渋谷の待ち合わせといえは写真のハチ公前が定番。でもよく見ると何か雰囲気が違うと感じないだろうか。三十代以上の皆さん

三軒茶屋

んにはおなじみの噴水がない。そう、野球部が優勝するたびに飛び込んだ噴水池は今も無い。ハチ公も方向を変え、駅に向かって立ち尽くしているのだ。

駒大生御用達のもう一つの街、三軒茶屋。駅前再開発により、大きく変わっている。世田谷線が約1000m短くなり、その土地に「キャロットタワー」と呼ばれる超高層ビルができ、地下街を歩いていると、まるで違う街にきたような錯覚にとられる。しかし、世田谷線は昔のままの姿で健在。電車の走る様子を見ると、学生時代の数々の思い出が蘇ってくるから不思議だ。

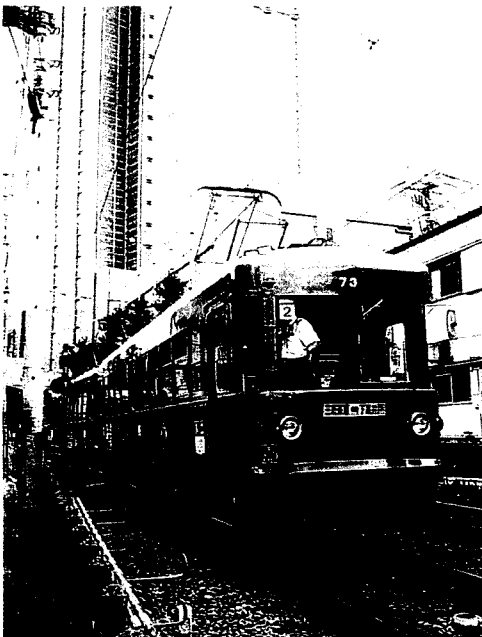
駒沢



大学正門前の雰囲気も変わった

昭和五十二年四月に開通した新玉川線の影響で大学周辺も随分変わった。駅周辺（真中交差点）にさまざまな店が出来ている。最近で最も大きな変化は、大学の隣にある、三菱

重工の社宅が十四階の高層マンションになったことだろう。それに伴い、駒沢交差点から大学正門に向かう駒沢通りは整備されきれいな歩道が続いている。今後大学もさらなる施設・設備の整備により変貌していくことだろう。



キャロットタワーを背に走る世田谷線電車

経済学部ソフトボール大会

第8回経済学部ソフトボール大会を、10月15日(木)開校記念日に玉川校舎グラウンドで開催する。
この大会は経済学部と経済学部同窓会が主催し、教育後援会(父母会)並びに駒澤大学同窓会の後援により開かれるもので、学生達にも秋のイベントとして定着している。
参加者には参加賞、ジュース、お菓子が配られるほか、参加全チームの記念写真を撮影している。
また、表彰内容も下記のとおり豪華で、大会を盛り上げている。毎年同窓生チームも参加しているが、昨年などは参加者が少なかったため、教員と合同チームを作り試合に臨んだ。当日、時間のある人は、玉川校舎グラウンドに足を運んでいただきたい。学生達と一緒に汗を流してみたいかだろうか。
当日は、AM9:00集合、9:30試合開始。

《表彰》

優勝	賞金5万円	優勝カップ	賞状	盾
準優勝	賞金4万円	賞状	盾	
3位	賞金3万円	賞状		
4位	賞金2万円	賞状		
5位	賞金1万円	賞状		
6位	賞金5千円	賞状		

二宮副会長長球界に復帰!!

中日ドラゴンズコーチとして大活躍

我が駒澤大学経済学部同窓会副会長の二宮至氏(昭和五十一年三月卒業)が念願のプロ野球界に復帰し、活躍している。
セ・リーグをおもし
門を歩んだ実績を持ち、

広告募集と投稿のお願い

「こまざわ経済通信」に
「こまざわ経済通信」は
三月と十月の年二回発行し
ます。発行部数は約五〇〇
部。広告料は縦8センチ、
横5.5センチの掲載サイ
ズで一万円とします。
また「こまざわ経済通信」
では皆様からの原稿を募集
しています。駒大同窓生同
士のコミュニケーションの
場であるこの紙面には是非投
稿ください。テーマは問い
ません。
(連絡先)
駒澤大学経済学部同窓会
広報部会 幹事・浜門真吾
〒154-18525
世田谷区駒沢一―二三―一
電話
03(3418)9049
FAX
03(3418)9050

大キャンパス情報

インターカレッジ実験セミナーに参加

早稲田大学などと学術的交流

昨年に完成したマルチメディア教室(一号館二〇一教場)を使用してさまざまなイベントが開催されている。

七月三十一日と八月三日には早稲田大学が開催したインターカレッジ実験セミナーに学生有志が参加した。これは早稲田大学が発信するセミナーを、駒澤大学、苫小牧駒澤大学、北海道大学、琉球大学においてもテレビ会議システムで受講し、自由に質疑応答を行うといったセミナーであった。

道大、琉球大においてもテレビ会議システムで受講し、自由に質疑応答を行うといったセミナーであった。

第一日は文芸誌「すばる」編集者の瀧川修氏が「生産現場から見る文芸」を、第二日は作家の辺見庸氏が「ジャーナリズムと私性」について講演された。このセミナーは、学生はもちろん、一般の方も公開された。

このシステムを利用すれば、最新の授業を他大とも共有できるだけでなく、双方での会話によるさまざまな交流が可能となる。二十一世紀に向けての新しい大学のネットワークングのあり方として注目である。

神宮に駒大旋風の子感

東都大学野球秋季リーグ戦

春の東都大学野球リーグ戦、無念の二位に終わったものの最後まで優勝を争った面々がさらに実力をアップして秋のリーグ戦に臨んでいる。

春は連敗スタートで心配したが、この秋に向けては明るい材料がいくつかある。

影山投手は春のリーグ戦防壁率0.82で一位。出遅れた昨秋のMVP武田投手も復調している。板野真士君(経営四年)はアマチュア全日本代表として参戦したイタリアの大会から凱旋、社会人などにもまれすつかり遅くなってきている。新井貴浩君(法律四年)と光武徳起君(経済四年)も大学全日本代表として戦った日米野球で力をつけて帰ってきた。

秋のリーグ戦は駒大優勝の予感がする。皆さんも神宮球場へ足を運んでみてはいかがだろうか。

今回は、十月下旬と十一月月上旬に、英国エジンバラ大学からのテレビ会議システムによる講義を駒澤大学において中継する。

今季も好調!駒大駅伝

揖斐君・藤田君世界に羽ばたく

ア。八月二日の決勝に駒を進めた。決勝はさすがに強豪揃いでメダル獲得はならなかったが、14分06秒63と予選のタイムを上回っての七位入賞を果たしたことは立派であった。

揖斐君は岐阜県上岐商業高校時代から長距離種目で大活躍していた日本長距離界期待のランナー。駒大でさらなる成長を遂げてほしい。

また、駒大地上競技部のエース藤田敦史君(経営四年)は、今年も絶好調。三月の熊日30キロロードで日本最高記録を樹立。五月関東インカレと九月全日本は、今年も絶好調。

また、駒大地上競技部のエース藤田敦史君(経営四年)は、今年も絶好調。三月の熊日30キロロードで日本最高記録を樹立。五月関東インカレと九月全日本は、今年も絶好調。

ジュニアといえども世界のトップが集まるこの大会で、入賞することは並大抵のことではない。

今年も、陸上競技部が元気で、経済学部商学科一年生の揖斐祐治君がフランス西部のアヌシーで開催された第七回世界ジュニア選手権に出場し、五〇〇mで七位に入賞する大健闘を見せた。

ジュニアといえども世界のトップが集まるこの大会で、入賞することは並大抵のことではない。

揖斐君は予選を五位(タイム14分09秒24)でクリアした。



マルチメディア教室で三月に行われたインターネットシンポジウム

ジュニアといえども世界のトップが集まるこの大会で、入賞することは並大抵のことではない。



激走する藤田選手(箱根駅伝より)

経済学部同窓会会費納入のお願い

【年会費については、3年を1単位として納入する方式に致しております。】

- 会費納入額・納入時期と振替口座は以下のとおりです。
- すでに納入くださった方は、次回は平成11年11月の納入になります。
- 平成10年11月(平成10年3月卒業生および既卒者の新規加入)
 - 平成10年度分(1年分2,000円) = 2,000円
- 平成11年11月(平成11年3月卒を含む全卒業生:第3回総会開催時)
 - 平成11年度~平成13年度(1年分2,000円×3年度分) = 6,000円
- 郵便振替口座 口座番号 00190-1-614809
 - 加入者名 駒澤大学経済学部同窓会

各種連絡・振込等には会員番号を忘れずに

卒業後に同窓会への異動連絡がなかったために連絡が不可能になる方が例年後を断らず開催通知の発信人への返送等も非常に多くなって来ております。また連絡を頂いても住所と名前だけで事務処理が非常に困難です。経済学部同窓会事務局への異動等の各種連絡や会費の振り込み等に際しては必ずFaxまたは郵便等文書で、同窓会会員番号、卒業年月を忘れずに記入して下さい。

【みなさんの会員番号は、総会開催通知の封筒に記載されている番号です。】
例: ○○○○-○○○-○○○○○ 141-93-123456

石原氏鮮烈デビュー

五月四日、今春、駒澤大学法学部政治学科を卒業した石原英康氏が鮮烈なボクシングプロデビューを飾った。

名古屋の松田ジムに所属する石原氏は、アマチュア界無類のハードパンチャーで、当ジム会長期待の星。デビュー戦でWBA世界ジュニアフライ級三位、日本フライ級王者のスズキ・カバトとの対戦という重圧をはねのけた。

第二戦は、九月六日名古屋で行われ、比国六位の選手を六R三十七秒TKOで下した。二Rに左ストレートでダウンを奪い、その後は一方的に攻めた。次回は一月に日本タイトルに挑戦する。

五月四日、今春、駒澤大学法学部政治学科を卒業した石原英康氏が鮮烈なボクシングプロデビューを飾った。

名古屋の松田ジムに所属する石原氏は、アマチュア界無類のハードパンチャーで、当ジム会長期待の星。デビュー戦でWBA世界ジュニアフライ級三位、日本フライ級王者のスズキ・カバトとの対戦という重圧をはねのけた。

第二戦は、九月六日名古屋で行われ、比国六位の選手を六R三十七秒TKOで下した。二Rに左ストレートでダウンを奪い、その後は一方的に攻めた。次回は一月に日本タイトルに挑戦する。

五月四日、今春、駒澤大学法学部政治学科を卒業した石原英康氏が鮮烈なボクシングプロデビューを飾った。

名古屋の松田ジムに所属する石原氏は、アマチュア界無類のハードパンチャーで、当ジム会長期待の星。デビュー戦でWBA世界ジュニアフライ級三位、日本フライ級王者のスズキ・カバトとの対戦という重圧をはねのけた。

第二戦は、九月六日名古屋で行われ、比国六位の選手を六R三十七秒TKOで下した。二Rに左ストレートでダウンを奪い、その後は一方的に攻めた。次回は一月に日本タイトルに挑戦する。